

持続可能な産地を目指して（前編）  
～福山市新市地域を中心とした HITOTOITO プロジェクト～

日本国内には様々なものづくりの産地がある。なかでも繊維は、私たちの生活に欠かすことの出来ない「衣・食・住」の要素の一つとして、古くから国内で生産されてきた。特に、三備地区(備前・備中・備後)は、日本有数の繊維産地として知られている。繊維製品の輸入比率が高まるなかでも、国内の繊維産地には高度な技術の蓄積があり、その技術は現在も受け継がれている。

福山市新市地域はワークウェアの大手メーカーをはじめ、繊維関連の企業が集積している。特にデニム製品においては、生地製造から、裁断、縫製、洗い加工など、川上から川下まで、一貫生産が可能な産地を形成している。しかしながら、日本の人口が減少し、高齢化するなかで、繊維産地の担い手も徐々に減少し、そして高齢化している。そのため、後継者不足も深刻な問題となっている。

本稿前編では、当産地の概要ならびに当地域にて展開されている繊維産地継承プロジェクト（以下、HITOTOITO）の概要を紹介する。この取組は、国内における様々な産地の持続可能性を考える上で、我々に大きなヒントを与えてくれるはずである。

## I. 備後地域における繊維産業発展の背景

広島県福山市を中心とする備後地域では、地場産業として繊維産業が発展してきた。その歴史は、江戸時代にまで遡る。当時、地域内を流れる芦田川流域では、綿花や藍の栽培が行われ、緋の技術が創案された。

日本三大緋の一つに数えられる備後緋は、染料や紡績の進歩、製造工程の機械化により大量に生産されるようになり、1960年代に製造のピークを迎え、全国の生産量の7割程度を占めるまでに発展した。その後、緋の生産は、生活様式の変化に伴い減少していくものの、その技術を応用し、デニムやワークウェア製造へと移行。備後緋の技術は、現在へ受け継がれている。

備後緋（びんごがすり）



写真提供：福山観光コンベンション協会

## II. 川上から川下まで分業体制が整った産地

緋を製造していた時代から、当産地には分業体制が根付いており、現在でも撚糸、製織、パターン、裁断、縫製、ボタン・衤打ち、染色、洗い加工、プレス仕上げなどの工程を担う専門会社が事業を行っている。限られたエリア内で、製品製造に必要なすべての工程を

川上から川下まで網羅している繊維産地は珍しい。また、高い技術力と製品のクオリティの高さから、国内の有名ブランドやヨーロッパのラグジュアリーブランドの製品には、当地の生地を使用し、当地でつくられたものが少なくない。新市地域を中心とした福山市北部のエリアが、「繊維のまち」と呼ばれる所以となっている。

### III. HITOTOITO プロジェクト

#### ① 産地の危機感がきっかけ

当産地で HITOTOITO プロジェクトがスタートする背景には、「産地の危機感」があった。「当産地には、江戸時代から続くものづくりの伝統があり、各社ともものづくりには自信がありました。その技術を継承していこうと考えた時、後継者育成が大きな課題であることを痛感したのです」と、当プロジェクトの後藤和弘委員長（加富屋株式会社代表取締役）は説明する。この危機感は産地内の各社共通の認識であったという。この状況を打開するために、各社は協力して、解決策を話し合うようになった。ライバル関係にあった企業であっても、産地のために一枚岩となったのである。

大きなヒントとなったのが、鞆の産地で有名な兵庫県豊岡市の取組であった。豊岡市では地域の産業を守るために、「豊岡鞆 アルチザン スクール」を立ち上げており、次世代の鞆職人の育成が図られていたのである。

こうして2016年、地元企業8社が中心となって HITOTOITO プロジェクトはスタートした。

#### HITOTOITO プロジェクトのホームページ



出所：HITOTOITO ホームページ URL：<https://hito-to-ito.com/>

## ② プロジェクトの活動概要

HITOTOITO の活動内容は多岐にわたる（図表 1）。地域が誇る高い縫製技術を受け継ぐ担い手を育成することを目的としたカリキュラムのほか、この地域の製品の魅力を伝えるためのイベントやワークショップを実施している。

図表 1 主な HITOTOITO の活動内容

<b>カリキュラム</b>  デニムパンツを作るために必要な専門知識や工業用ミシンを使った縫製技術を1ヵ月かけて学ぶ。備後緋の歴史やデニムの専門知識などを学ぶ座学、縫製工場や企業見学も実施。	<b>ワークショップ</b>  縫製の楽しさを体験できるワークショップを開催。地域で活動するデザイナーを講師に迎え、デニム生地を使ったバッグなどを制作。
<b>デニムツアー</b>  デニムが生まれる背景を見学・体験し、学ぶ産地型デニムツアー。織り・加工・洗いなどデニム製造の工程をめぐる工場見学と自分だけのジーンズ制作、世界基準の技術と体験が得られるプログラム。	<b>産地PR</b>  繊維産地としての魅力や製品のすばらしさを知ってもらうため、各種イベント等に参加。
	<b>商品開発</b>  備後緋をアレンジしたTシャツなどのオリジナルアイテムを開発。

資料：HITOTOITO ホームページより当研究所作成

## ③ デニムスクールの概要

主要活動となっているのが 2018 年にスタートしたカリキュラム、「デニムスクール」の開催・運営である（図表 2）。

参加者は、各自 1 台ずつ工業用ミシンを貸与され、デニム縫製のプロによる実技指導を受ける。専門知識や縫製技術を学ぶことができ、卒業時には自分のサイズに合わせたオリジナルデニムパンツを、縫い上げ、持ち帰ることができる。

また、座学や実技の合間には「福山市しんいち歴史民俗博物館」で備後緋の歴史を学んだり、生地、パターン、縫製、洗い加工など、地元工場への見学の機会も用意されている。

図表2 デニムスクールの概要

デニムスクールの概要	
コース	第16期・10日間講座
日程	2023年1月30日(月)～2月10日(金)
時間	<終日> 9:00～16:00 (うち休憩あり)
定員	6名
受講料	45,000円(税別) 内訳:授業料15,000円、教材費30,000円 ※教材費に含まれるもの 材料費(生地、付属品等)、型紙代、テキスト代
製作物例	デニムペンケース B4サイズ・デニムトートバッグ 練習用デニムショートパンツ 卒業制作・自分サイズのデニムパンツ
場所	〒729-3103 広島県福山市新市町新市1156-1

資料：HITOTOITO ホームページより当研究所作成



デニムスクール開校式風景



ミシンの説明を受けるスクール生



しんいち歴史民俗博物館（第3展示室）：学芸員による解説も用意されている

HITOTOITO プロジェクト副委員長・黒木美佳さん (㈱ディスカバーリンクせとうち)



HITOTOITO は地元繊維工場 8 社により 2016 年からスタートしたプロジェクトです。私は当初から主に事務局として活動をサポートしてきました。

当プロジェクトの主要活動となっているのが 2018 年にスタートした「デニムスクール」の開催・運営です。これまでに 14 期、計 100 人以上の卒業者が巣立っています。全国から、様々な方の参加があり、地元工場等へは卒業生の約 1 割が就職されています。当初は 2 ヶ月に一度のペースで開催し、開催期間も 1 ヶ月と長期のコースも用意していました。試行錯誤をしながら回を重ねてきました。現在はコロナ禍で開催頻度は減少し、約 2 週間のコースでの開催を行っています。

繊維製品のものづくりは糸を紡ぐ工程から始まります。当プロジェクトの目的は「人材」育成と「糸」を育てて繊維製品をつくり続けること。そして、当地域で連綿と続いてきた物づくりの歴史の糸と、人と人との絆やつながり。そうしたものを大切にしていきたいという思いが、プロジェクト名には込められています。



工場見学会風景①：生地について学ぶ



工場見学会風景②：洗い加工について学ぶ



工場見学会風景③：プロの縫製を実演で学ぶ



工場見学会風景④：スクール卒業生との意見交換

後編へつづく

(当研究所 西村 幸 高本 和英)